



○ オロミア州

「Discover our school」いよいよ開始！

1月以降、各県のHo! ManaBU (HM)パイロットCRCで、「Discover our school (DOS)」研修が続々と始まっています。DOSは、トイレや校庭など、基本的な学校環境10項目を教員が調査・分析するパート1と、この分析結果をクイズ形式で地域住民に問い、学校の現状を知ってもらい、学校改善にどのように取り組むかを話し合うパート2の2部で構成されています。これまでのモニタリングの様子を少しご紹介すると....

東ショアのマルティ小学校では、教員による分析結果に基づいて、パート2を行った結果、トイレ・給水設備・校庭の整備に取り組むことになりました。児童1,700人に対して、トイレや給水施設が不足していること、校庭に運動施設がないことなどが分析された結果です。さらに、パート2に参加した住民が校内のごみ管理を問うクイズを通じて、ごみが校内に落ちているのはよくないことだということを認識し、研修後に参加者全員で直ちにごみ拾いを行ったそうです。お金をかけなくともこうした改善活動はすぐにできることを示す好事例ですね。ちなみにマルティ小学校は国営砂糖製造工場の子をを対象に1962年に開校した学校で、1,700名の児童のうち、オロミア母語話者は109名。教員も44名のうちオロミア語話者は半数。というわけで、DOSの調査・分析シートはアムハラ語に翻訳し、HMで供与されたコンピューターで新たにフォーマットを作りなおして研修に使ったそうです。

また、西ハラグのカモナCRCでは、中心校だけでなく、傘下の衛星校4校の校長・教員も招いて、パート1を実施しました。私達がモニタリングに行った頃は県全体で農業啓発運動が実施されており、そのファシリテーター要員として学校長が動員されているとのことで、この活動が終わったあと、中心校と衛星校でCRC担当官、中心校の校長と主任が各校を巡回し、研修を実施する予定だそうです。



上：アムハラ語の翻訳された分析シート（マルティ小学校）
下：パート2の研修風景（ヒドノ・トクマ小学校：衛星校）

これまでモニタリングを行った学校での聞き取り調査では、以下のような効果が認められています。

- **学校環境についての教員の理解の深まり**：学校の問題を教員間で共有できる。
- **「分析」に対する気づき**：具体的なデータをもとに状況を考えていくことができる。これまでの「翌年の学校計画作り」のプロセスでは、「今年度の計画」が実施の成否が基準となっていたが、このようなデータに基づいた分析も併せて行うことが大切。
- **地域住民への説得力の向上**：学校で分析しているため、住民への説得力が容易になる。
- **地域住民と問題を共有することへの意識の向上**：学校の問題を住民と共有し、解決にあたることができる。

昨年開発された「中途退学」や「女子教育」などの啓発シリーズでは、研修の主なターゲットは地域住民でしたが、DOSではパート1の分析作業を学校が行うことで、学校側の意識改革にも大いに貢献していることが聞き取り調査から確認されています。前述のマルティ小学校では、担当教員が放課後や週末などを使って調査を行い、分析のセッションでは4時間もかけて話し合ったとのこと。スゴイ！DOSのモニタリングはこれからも続きます。研修の結果、各CRCでどんな取り組みが行われていくか、引き続きレポートします。お楽しみに！

OEB 主体計画

次のコラムの「PDM Ver.3 完成間近」でも出てきますが、昨年10月にオロミア州教育局（OEB）が主体的にHM研修を実施する計画、名づけて「OEB主体計画」が登場し、中間評価においてもその主体性を尊重し、今後のプロジェクト成果の一つに位置づけられました。その「OEB主体計画」がじわじわと現実味を帯びてきています。そもそも、HM研修は3つのステップ「気づき」「分析」「計画・行動」で構成される構想で、すべてが完成した後に、オロミア州全土に広がることを期待していたのですが、初年度の「気づき」のHM研修のモニタリングを通し、「これは行ける！」とOEBが感じとり、「OEB主体計画」が提出されました。

*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

というのも、オロミア州の小学1年生の中途退学率は、3割を超え、3.3人に1人が1年生さえも修了できておらず、何か手を打たないといけないという思いがOEBにありました。そこに、HM研修が現れ、視察に行ってみると、地域住民が楽しく参加しつつ、中途退学に関する認識を深め、その対策を議論している姿を目の当たりにし、「行ける！」となった次第です。具体的には、研修教材はJICAにお願いするものの、これまでプロジェクトが実施してきたファシリテーター研修(TOT)やモニタリングはOEBの予算で実施する計画です。策定メンバーも決まり、いよいよです。

PDM Ver.3 完成間近

～「主体的な学校運営」支援を目指して～

前号のしんぶんでは、プロジェクトの中間評価結果についてお伝えしましたが、その一環として行われたPDM(プロジェクト・デザイン・マトリックス)やPO(活動計画)の改訂作業も最終段階に入り、改訂版の完成も間近です。

今回の改訂作業のポイントは、「プロジェクトが目指す学校運営」が単なる学校と地域住民の協働によって改善されるのではなく、両者の協働を通じて「主体的に行われる」ことを共通認識としてプロジェクト目標に明記したことです。これに伴い、成果や活動・指標を見直し、新たな目標達成のための学校・地域住民・教育行政機関への支援内容や方法を整理しました。

この改訂の背景には、エチオピアにおいて現金の寄付や労働力の提供などを通じた地域住民の学校運営への参加はすでに当たり前で、そういった意味では協働による学校運営はすでになされていること、その一方で、学校と地域住民が、それぞれの役割に責任を持ち、政府から言われたり、外部からの援助などの働きかけによって行うのではなく、内発的な動機を持って、それぞれの役割を果たして主体的に取り組む、という面は発展途上であるという事実があります。また、現行のプロジェクト目標では、教育行政組織と地域住民による協働として、郡/特別市教育事務所(WEO/STEO)と学校をまとめて教育行政組織として扱っていましたが、実際には、WEO/STEOは、学校と地域住民による学校運営を監理・支援していく立場にあることから、改訂版では3者の立場の違いを明らかにしています。

さらに、現在進められている「OEB主体計画」を踏まえ、改訂版PDMでは、「プロジェクトの研修とアプローチをOEBが主体的に活用し、普及していくための基盤強化」が目指すべき新たな成果(成果3)として織り込まれました。

というわけで、PDM第3版は、プロジェクト目標だけでなく、ナント！上位目標までも変えてしまったという徹底ぶりです(下記参照)。改訂版PDMの最終案は、合同調整委員会のメンバーに内容確認を仰ぎ、メンバーからの承認を経て、確定されます。

PDM 第3版(案)

上位目標

オロミア州において、主体的な学校運営が広く行われる。

プロジェクト目標

プロジェクト対象地域において、教育行政機関の支援の下、学校と地域住民の協働を通じて主体的な学校運営が行われる。

成果

1. 学校改善活動にかかる計画の策定・実施プロセスが改善される。
2. 教育行政機関による学校改善活動のモニタリング体制が強化される。
3. プロジェクトの研修とアプローチをOEBが主体的に活用し、普及していくための基盤が強化される。

活動

- 1.1 学校および地域住民が、学校改善における各々の役割・責任を理解し、主体的な学校改善活動に取組めるようになることを目指したHM研修を開発する。
- 1.2 1.1で開発されたHM研修のTOT(ファシリテーター研修)を実施する。
- 1.3 パイロットCRCでのHM研修実施を支援する。
- 1.4 開発した教材(Quick Learning Videoなど)や供与した機材の有効活用を支援、フォローアップする。
- 1.5 開発されたHM研修をパッケージ化する(HM研修パッケージの開発)。
- 2.1 既存のモニタリング・報告体制の課題を分析する
- 2.2 開発されたモニタリング・報告書式を改訂する。
- 2.3 2.1および2.2を踏まえ、教育行政官を対象に、既存のモニタリング・報告体制改善のための研修を実施する。
- 2.4 2.3の研修成果を基に、ガイドライン、マニュアルを開発する。
- 3.1 プロジェクトの経験・好事例を普及させるため、実現可能性の高い「OEB主体計画」の策定を支援する。
- 3.2 プロジェクト成果を分析するための具体的な事例や(特に定量的な)データをとりまとめる。
- 3.3 他の教育活動・案件との効果的な連携方法を模索する(SIPなど)。
- 3.4 プロジェクトの知見・経験共有を促進する。
 - 3.4.1 定期会合を利用し、教育行政機関間の経験共有を支援する。
 - 3.4.2 情報共有マガジン「ODA」を発行し配布する。